よかれと思って

座席を譲った。混雑ぎみの 地下鉄の扉付近。

その人の手にはキャリーケースと、大きめの紙袋が２・３個。
『ありがとう、でも二駅先で降りますから』「いえいえ、どうぞどうぞ」
遠慮の言葉をさっと押し切り、私は対面斜め前、つり革の元へ。

一駅を越えたあたり、
（トン トン）『コレ、お礼』。不意に差し出された３つの飴ちゃん。

走行音漂う車内、まるで一瞬、手元から私へ向けられた 視線の群れが やけに染みる。

「あぁ、、どうも」。飴はしばらく握ったままだ。

きっかけ感話
【 超 短 編 】

---

vol.42

和而不同

《本人の意思を尊重する、というかたちでの搾取がある。そしてまた、本人を心配する、というかたちでの、おしつけがましい介入がある》。社会学者、岸政彦氏著『断片的なものの社会学』の一節である▼夏の甲子園、大深紅旗は神奈川県代表慶応高校へ渡った。第二回大会以来、実に一〇七年ぶりの優勝。一方その裏では、「酷暑下における開催の是非」を筆頭に、「頭髪の在り方」など、実際のプレー以外に関わる話題が賑わいをもたらした▼スポーツ評論家・著名人・政治家・・・そして自分自身において、あたかも『彼ら（球児）のことを思って』という言論の振る舞いは、一般論を装いつつどこか空虚なものだ。そこには、圧倒的に、《当事者》が不在である▼日常生活の中では、「よかれと思って」行動する場面が折々にある。例えば、譲る・助言する・代行する。しかしながら、いずれもそのさじ加減次第では、かえって逆効果が生じてしまうことも▼『何か人（のため）に良いことしよう思った時にはな、あやまりながら、やりなはれ』。とある僧侶の言葉だ。無論、「困っている人を助けたい」自ずとそう催されてゆく姿は尊い。だがそれは同時に《当人不在》という危うさも内包することがある。

若院コラム

そのために話し合いというのは大事なのです。小さいえば家庭内の営み、親子であっても、兄弟であっても、夫婦であっても、話し合いを失ったら、人の都合を考えることなく、自分の都合だけで突っ走っていって破滅するという危うさがでてくるのです。
大きく言えば地域共同体の運営も、国と国との外交もそうでしょう。

梯 實圓 和上
『親鸞聖人の信心と念佛』
2007 自照社出版

寺報をネットで読む

WASHITE DOUZEZU